

令和6年度学校評価結果及び学校関係者評価
飯塚市立上穂波小学校

令和6年度の学校運営及び教育活動について、本校職員が「自己評価」をしました。自己評価結果から本年度の成果と課題を明らかにし、課題については改善策を立てました。このことについて、学校運営協議員の皆様に評価していただいたのが「学校関係者評価」です。地域から信頼され、地域と共にある学校をめざして、この自己評価及び関係者評価結果を来年度の学校づくりにいかしていきます。

評価項目	評価（割合）%				R6	R5	平均点	成果と課題 (○) (●)	改善策 (◇)	学校関係者評価 (評価に対する意見)
	4	3	2	1	平均点	平均点				
組織運営	1	各部・係が学校教育目標の具現化に向け、経営の重点に基づいた企画により、校務分掌の遂行にあっている。	43.8%	56.3%	0.0%	0.0%	3.4	3.2	◇教職員間の情報共有、管理職への報告・連絡・相談などの行い方については、年度当初に全体で共通理解を図っておく。 ◇誰がどの分掌になっても変わらず学校運営が行えるよう、次年度へ向けた引継ぎの充実を図っていきたい。 ◇次年度は各部長がさらなるリーダーシップを発揮して各分掌の中でPDCAサイクルを回していくことが必要。	・報告・連絡・相談がきちんととれているところはよい。 ・自分の担当がはっきりとわかっていることや、報告・連絡・相談の体制ができていて、組織的な取組ができていていると思う。
	2	各部・各係・組織の役割や仕事内容・範囲が明確にされている。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	3.6	3.2		
	3	各部・係の取組のPDCAサイクルを実施し、取組の改善を図っている。	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	3.3	3.2		
	4	管理職に対する報告・連絡・相談体制がとれている。	68.8%	31.3%	0.0%	0.0%	3.7	3.3		
	5	教職員間の情報共有と組織的な協働体制がとれている。	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	3.4	3.4		
教育課程	6	年間指導計画に沿って、計画的に教科等の授業を行っている。	50.0%	43.8%	0.0%	6.3%	3.4	3.2	◇授業改善の方策として授業チェックシートを活用した授業観察を行い授業者にフィードバックしたり、若年層が授業を参観して学べる体制づくりを進めたりすることなどが必要。 ◇地域のひと・もの・ことを計画的に活用していくために、総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しを行い、時期や内容を吟味する。	・地域の特性を生かした独自の教育活動ができていていることが上小の強み。 ・家庭ではなかなかできない体験活動が児童の情操を育てている。 ・本物に触れることが大切。 ・上穂波小児童に情報活用能力は育っている。ぜひ継続してほしい。
	7	学習のめあてを設定し、まとめと統合した学習指導を行っている。	31.3%	50.0%	18.8%	0.0%	3.1	3.2		
	8	教育活動のねらいを明確にし、児童に目標をもたせての参加・振り返りができている。	6.3%	81.3%	12.5%	0.0%	2.9	3.4		
	9	地域のひと・もの・ことを活用した学習活動を工夫することができている。	25.0%	56.3%	18.8%	0.0%	3.1	2.8		
	10	授業にICTを効果的に活用し、わかる授業づくりに努めている。	50.0%	31.3%	18.8%	0.0%	3.3	3.3		
危機管理	11	危機管理マニュアルにおける分担と役割を理解している。	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	3.1	3.2	◇危機管理マニュアルについては、避難訓練等の行事に関連付けて読み合わせをするなど、未然防止の意識化を行っていく必要がある。 ◇教師からの指導だけでなく、児童同士も自分たちが安全に過ごすためにの声掛けや取組ができるとよい。	・学校は古いですが、きちんと整えられている。 ・引き渡し訓練は今後も必要。
	12	安全や危機に対する指導・教育を児童に適宜行っている。	46.7%	53.3%	0.0%	0.0%	3.5	3.2		
	13	建物・設備・遊具の安全点検や修理等を行っている。	68.8%	25.0%	6.3%	0.0%	3.6	3.2		
人権教育	14	児童一人一人の人権を大切にしたい指導・対応を行っている。	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%	3.6	3.5	◇あたたかい言葉かけやコミュニケーション能力の向上など、発達段階に応じた人権感覚を養うための学級活動や道徳科学習の充実を図る。 ◇人権教育学習教材集「かがやき」「あおぞら」などを活用し、個別の人権課題に対する学習を進め、自他の人権を大切にできる子どもの育成に努める。	・限りある時間の中で、先生方に丁寧に対応してもらっている。 ・いろいろな子ども達がいるが、児童クラブとの連携がしっかりできている。
	15	日々の授業で、個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を行っている。	50.0%	43.8%	6.3%	0.0%	3.4	3.2		
	16	学力の基礎・基本の定着を図るための具体的な手立てを工夫している。	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	3.3	3.4		
	17	児童の人権感覚や豊かな心を育てる取組を工夫している。	25.0%	68.8%	6.3%	0.0%	3.2	3.2		
	18	丁寧な言葉づかいや名前を呼び捨てにしない指導を行っている。	37.5%	43.8%	12.5%	6.3%	3.1	2.9		
生徒指導	19	児童一人一人の居場所がある学級集団づくりができている。	20.0%	73.3%	6.7%	0.0%	3.1	3.2	◇子ども一人一人のよさを認め、子どもに自己肯定感や有用感、充実感を味わわせるような授業や活動を推進する。 ◇規範意識の醸成を図るために、教職員の一貫した指導及び家庭との連携を今後も進めていくようにする。 ◇挨拶運動や廊下歩行など、児童主体で取り組める活動を仕組んでいく。 ◇今後も関係機関との連携を図る必要がある。	・小小、小中の連携ができていて安心した。 ・生活バランスが崩れて遅刻や欠席する児童がいる。基本的な生活習慣の定着やきまりを守る意識は、家庭でも身に付けさせていくことが大切。 ・スマホ依存による健康被害やいじめ、誤情報等をどう抑止していくかが課題。家庭でのルール作りが必要。
	20	挨拶や学習の準備・整理整頓など、基本的な生活習慣の定着を図っている。	18.8%	68.8%	12.5%	0.0%	3.1	3.2		
	21	学校のきまりや社会規範を守る指導を行っている。	26.7%	73.3%	0.0%	0.0%	3.3	3.2		
	22	様々な場で児童一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感を味わわせている。	31.3%	62.5%	6.3%	0.0%	3.3	3.1		
	23	不登校やいじめ問題に対して未然防止・早期発見・早期対応など組織的な対応を行い、職員間で共通理解を図っている。	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.5	3.2		
	24	生徒指導に関する関係機関との連携・協力を積極的に行っている。	43.8%	37.5%	12.5%	6.3%	3.2	3.3		
研修	25	公開授業研究を年1回は実施し、仮説・着眼の有効性を検証することができている。	64.3%	21.4%	7.1%	7.1%	3.5	3.3	◇3学期の標準学力検査の結果を指標として評価を行い、方策の有効性について検証を行い次年度の学力向上プランに反映させていく。 ◇個々のスキルアップを目指して、年間1回は外部研修に参加できるような体制づくりに努めたい。	・授業改善、AIドリルの活用など学力アップにつながっている。 ・若年教員の育成や職員研修（ハラスメント等）を進める必要がある。
	26	学力テスト等の結果を分析し、実態と課題に応じた学力向上の取組を行っている。	35.7%	57.1%	0.0%	7.1%	3.2	3.2		
	27	職員は校外の研修等に積極的に参加し、自己研鑽に努めている。	20.0%	60.0%	6.7%	13.3%	2.9	3.1		
その他	28	学校は校舎内外の清掃が行き届き、掲示物をこまめに取り替えている。	37.5%	56.3%	6.3%	0.0%	3.3	3.1	◇学校通信やHP等でも学校から積極的に情報を発信する。 ◇次年度は6年生をモデルケースとして「黙々そうじ」の実現を推進する。	・教員の減少、人材不足を解消する一つの手立てとして、再任用等の活用が考えられる。 ・「tetoru」の導入は便利で良い。
	29	働き方改革の意義をふまえ、業務の改善・効率化に取り組んでいる。	18.8%	68.8%	0.0%	12.5%	2.9	2.8		
	30	通信や家庭訪問、懇談等を通して家庭・地域と連携して児童の健全育成に努めている。	26.7%	60.0%	13.3%	0.0%	3.1	3.2		

4……達成できた（80%以上）
3……だいたい達成できた（60～79%）
2……あまり達成できなかった（40～59%）
1……達成できなかった（40%以下）